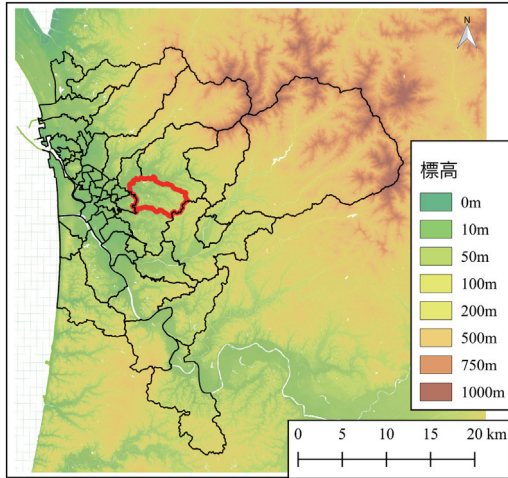


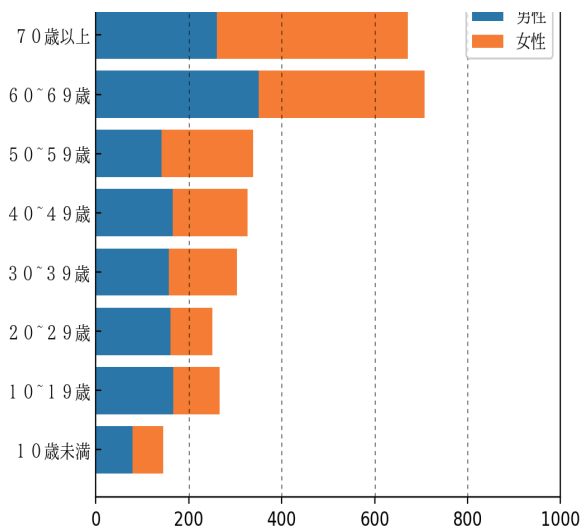
26：下北手小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	3,004 人
世帯数	1,170 世帯
65 歳以上人口	1,046 人
10 歳未満人口	144 人



平成 28 年 10 月 1 日現在

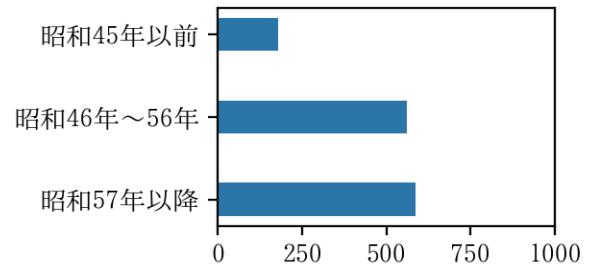
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	1325
非木造建物	113

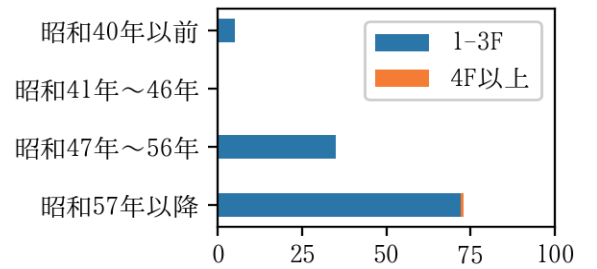
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	586
昭和46年～56年	561
昭和45年以前	178



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	72	1
昭和47年～56年	35	0
昭和41年～46年	0	0
昭和40年以前	5	0



平成 22 年 8 月現在

自然的・社会的基本指標

秋田市市街地の東部に位置し、全体に丘陵～山地地形が広がり、太平川右岸の家ノ前地区や大巻地区に新興住宅地が展開している他は、宝川や寒川等が作る谷底平野部に集落が点在する。山間地では急傾斜等土砂災害の危険性も高い。学校区の西部の一部は市街化区域に含まれている。人口構成では、50 歳代以下の年代はほぼ同程度の人口である一方で 60 歳以上の年代の構成比率が高くなっている 65 歳以上の高齢者層は全体の 35% である。建築物は新しい木造建築物が多く、昭和 57 年以降の建築物が 46% となっている。

3 自然災害に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 洪水

指定河川	太平川		
浸水面積 (%)	0.3		
最大浸水深 (m)	ランク 1		

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	28	五関、細谷沢、梨平、賀川、大杉沢、寒川、潤ヶ崎、中前田、賀川潟下 他
土石流危険渓流	72	大沢田沢、堂ヶ下沢、細谷沢、細谷沢、梨平沢、登館沢、潤ヶ崎沢、杉崎沢、元屋敷沢 他
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	39	谷崎、黒川、五関、下前田、大杉沢、桜谷地 他

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	57	谷崎沢、下北手松崎沢、大沢田沢 2、賀川、細矢沢、梨平 1 号 他
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震（どこにでも起こりうる直下の地震：M6.9）

平均震度	震度 6 弱	
(計測震度)	(5.74)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	4	
液状化危険度ランク	4	
建物全壊率 (%)	5.1	

* 津波（秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合）

浸水面積 (%)	(該当なし)	
最大浸水深 (m)	(該当なし)	

4 災害時要配慮者に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 要支援者関連施設（収容施設のみ）

種別	施設数
高齢者支援	10
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	6

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	0
こども園	0
幼稚園	2

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	2

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	1
高等学校	1
大学・短大・高専	2
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 消防関連施設

消火栓数（箇所）	29
防火水槽（箇所）	8
消防車台数（台）	6
消防ポンプ数（台）	4
消防団員数（人）	98

■ 避難所／避難場所（別表参照）

災害種別	施設数
洪水	4
土砂災害	3
地震	5
津波	0
福祉避難所	2
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称／箇所数
管轄消防署	城東消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院・医数（歯科を除く）	1
最寄りの救急告示病院	秋田大学医学部付属病院
自主防災組織数	12

自然災害時の危険要素

大平川の氾濫により家ノ前地区付近において 50cm 未満の浸水が想定されている。

土砂災害の危険性のある箇所は多く指摘されており、そのうち警戒区域等として 57 箇所（急傾斜 21 箇所、土石流 36 箇所）が指定を受けている。

地震動としては、学校区の北西部に広がる平地ではやや揺れやすくなっているものの、その他の地区ではほぼ様な揺れやすさとなっている。平地部において液状化が発生する危険性が高い。津波による浸水のおそれはないものと想定されている。

防災上の課題と対策

下北手小学校区は、南部の大戸川沿いに散在する集落群、中央部の宝川水系にそった集落群、および北端部の新興の住宅地からなる。これらの地区は地理的にもかなり独立性が高い。中央部には、秋田自動車道の秋田中央 IC があり、それと連絡する県道秋田北野田線は、ともに緊急輸送道路となっている。南部および中央部の集落の多くは土砂災害

(なだれを含む)の危険性が高い。老人福祉施設も南部、中央部、北部それぞれに設置されている。

学校区内にノースアジア大学や秋田栄養短大があり、通勤・通学者が、災害時に滞留すること考えられるので、滞留者の避難や帰宅方法についても対策を検討しておく必要がある。

避難所は中央部および北部にある。特に、秋田自動車道より東側の地区や大戸川沿いの集落においては、地域特性を踏まえ、集落単位での防災情報の共有、一時避難の方法など、地域に根ざした住民主体の防災予防活動が重要であり、自主的な地区避難計画などの形で集約し、周知が必要である。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
下北手小学校グラウンド	x	○	x	○	x	x	5,550 人
下北手小学校（体育館）	○	x	x	○	x	x	260 人
下北手中学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	5,500 人
下北手中学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	282 人
下北手地区 コミュニティセンター	○	○	○	○	x	x	63 人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
介護老人保健施設桜の園	下北手梨平字登館 8 番地	018-839-5977
秋田ワークセンター	下北手柳館字前田面 134	018-831-8010

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

